

湯川博士と空外上人

△江角 弘道△

日本人初のノーベル物理学賞受賞者湯川秀樹博士(1907～81年)は、あまりにも有名ですが、宗家にして偉大な哲学者である山本空外上人(1902～2001年)を知る人は、あまりありません。

素粒子物理学を研究して、不思議な縁で空外上人の著書に感銘を受け、その教えて生きる喜びに目覚め、空外記念館理事長になっていくからです。

湯川博士と空外上人の共通の思いは、世界の平和を祈願されたことでした。湯川博士は、アインシュタイン博士(1879～1955年)と共に核兵器出現を憂い、「ラッセル・アインシュタイン宣言」に署名され、スミ夫人やアインシュタインたちと核兵器を廃絶し、平和な世界をめざす「世界連邦」構想を説き続けられました。

空外上人は、ご自身も被爆され、原爆という20世紀の最悪の深刻な被害を目の当たりにして、「罪のない大勢の人を殺す戦争のある限り、人間とは言い難い。人間が人間になっていくためには、どういふ心がけが必

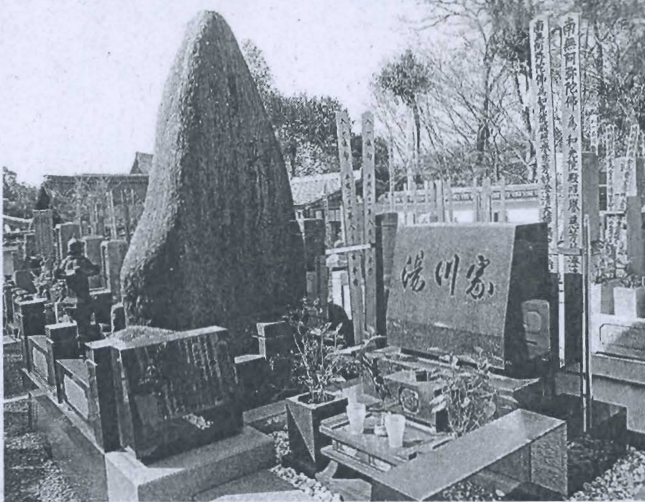
要か」ということで「無二の人間形成」に取り組んでこられました。いかなる個人存在も孤立的なものとしては成立しな。必ず他のものに依存して存在しているという仏教の根本である縁起の法から、自分と他人の心を深めながら、自

ともに世界平和祈願

不思議な縁 墓所が背中合わせ

湯川博士の墓。左の自然石は空外上人の墓標の裏面。京都・知恩院の特別墓域

湯川博士の墓。左の自然石は空外上人の墓標の裏面。京都・知恩院の特別墓域



分が自分に帰り、他人を樹大居士」と墓誌にありける理論物理学教育および研究の中心的存在で「光」は「無量寿経」の中す。空外記念館は、世界平和と人類の安寧のための精神性の発露の場として

空外上人は自・他とも蓮社達上人法性阿行行つとつとできるという「無二の生活」を説き続けます。この中の「一者」は「無二の生活」を易しく言えば、すべてのことは「おかげさま」であり、自分の手柄で何かできたという

湯川記念館は、基礎物理学研究所として京都大理学部構内に創立されました。そこは理論物理学領域における国際研究拠点であり、日本にお

湯川秀樹博士の戒名は「無礙光院殿照善慈濟秀究拠点であり、日本にお



空外上人の墓。京都・知恩院の特別墓域

(空外記念館理事長、島根県立大短期大学部名譽教授)